

歴博 ぐらしの植物苑だより

ぐらしの植物苑観察会

第100回記念 観察会参加者先着200名様記念絵葉書プレゼント

7月28日(土) 13:30~ ぐらしの植物苑にて

「市民のためのぐらしの植物苑」辻誠一郎 (東京大学大学院)

第101回 8月25日(土) 10:00~ ぐらしの植物苑にて

「変化朝顔の世界」仁田坂英二 (九州大学大学院)

ぐらしの植物苑今週の見どころ 毎木曜更新 <http://www.rekihaku.ac.jp>



江戸を咲かすー伝統の朝顔ー 7月24日(火) から9月2日(日)

期間中：午前中のみ栽培担当者の解説があります

8月21日(火) ~26日(日) は8時開苑になります

伝統の朝顔は今年で9回目になります。当苑でみていただける朝顔は変化朝顔といわれるもので、変わった葉や花を観賞します。正木系統：変化はしているが、鑑賞しているものから種子をとることが出来るもの、出物系統：変化がすごく、鑑賞しているものからは種子をとることが出来ない朝顔があります。



黄斑入州浜葉紅吹掛絞丸咲牡丹

まだ咲き始めたばかりですがだんだんと咲いてきます。



黄斑入蟬葉白地紅時雨絞咲分大輪

7月24日(火) 10:00からは、仁田坂先生を始め展示プロジェクト委員の先生の展示解説もあります。また11:00頃からは変化朝顔の苗の有償頒布を行います。

今年は朝顔の色、朝顔の模様をテーマに展示コーナーを設けます。

紫色



紅



ナタマメ (マメ科ナタマメ属)

若いさやを食用にする熱帯アジア原産の多年草ですが、温帯では1年草の作物になります。写真は白花のシロナタマメという変種になります。花を酢漬けにしたり、何度の水を替え、煮て煮豆やきんとんとして利用することもあります。



トウガラシ (ナス科トウガラシ属)

トウガラシは辛味の有無、果実の形・色などから、非常に多くの栽培品種があります。江戸時代から種々の品種の記載があります。また同じ仲間では辛味のないものがピーマンになります。



ムクゲ (アオイ科フヨウ属)

中国原産の落葉低木で、耐寒性のある夏の花木として、庭園や公園に植栽されています。樹皮の繊維は丈夫で、製紙原料や結束料に利用される。



オトギリソウ (オトギリソウ科オトギリソウ属)

山野の原地に生える多年草で、葉柄がない。枝先に黄色い集散花序をつけます。全草にタンニンを含み、紫外線を吸収する色素を持ちます。民間薬として利用もされます。



ムラサキ (ムラサキ科ムラサキ属)

乾燥した草原に生える多年草で、紫根染めに用いられるため、古くから栽培されています。根からは紫色の染料シコニンが取れます。根を漢方薬にも用います。苑のムラサキは岩手山麓で採取され、種子で繁殖したものです。



ツルレイシ (ウリ科ツルレイシ属)

インド原産で食用に栽培されます。果皮には独特の苦味があり、未熟果を油いためや三杯酢にしたり、完熟果では、種子を包む果肉も甘くおいしい。

